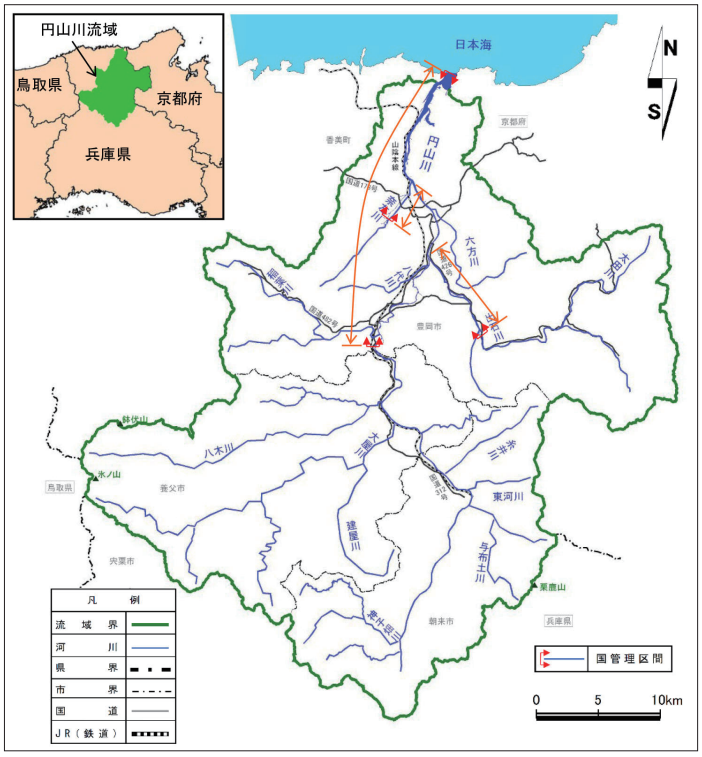
豊岡河川国道事務所の河川事業概要について

国土交通省 近畿地方整備局
豊岡河川国道事務所 所長 荒谷 芳博

図 -1　河川整備計画の対象区間



1. 事業の背景

豊岡河川国道事務所では、兵庫県豊岡市内の円山川・出石川・奈佐川において河川改修及び維持管理、環境維持等の河川事業を行っています。

円山川は、その源を兵庫県朝来市生野町円山に発し、途中、稲葉川・出石川・奈佐川等を合流し日本海に注ぐ、流域面積約 1,300km2、幹線流路延長約 68km の一級河川です（図 -1）。流域は、兵庫県の豊岡市、養父市、朝来市の 3 市からなり、流域内人口は約 14 万人です。人口・資産は、直轄管理区間中流部の豊岡市街地に集中しており、但馬地方における社会・経済・文化の中枢をなしています。

円山川は本川の河口から出石川合流付近までは近畿の他の一級河川と比較し非常に緩い河床勾配となっています。また、下流では両岸に山地がせまり、川幅が狭くなっているため上流の本支川から集中した洪水が流下しにくくなっており、低平地では大雨による内水被害が発生しやすいという特徴があります。（図 -2）

また下流部は、感潮域となっており、干潟やヨシ原、ワンドなど円山川の河川環境を特徴づける要素の一つである湿地環境が分布しています。「円山川下流域・周辺水田」としてラムサール条約湿地に登録され、国指定特別天然記念物のコウノトリの野生復帰に向けた取り組みが進められています。

2. 事業の内容

（1）治水事業

平成 16 年 10 月の台風 23 号によって、円山川と出石川の 2 箇所で堤防が決壊し、豊岡市内に甚大な被害をもたらしました（図 -3）。この水害後から平成 22 年度にかけて河川激甚災害対策特別緊急事業として河道掘削、橋梁・堰の改築、築堤、排水ポンプの増強等を行い、流下能力の向上を図ってきました。平成 25 年 3 月には円山川水系河川整備計画を策定し、平成 16 年台風 23 号と同規模の洪水が発生した場合であっても、家屋等の浸水被害を軽減することを目的に治水対策を実施してきました。

令和 6 年度は、下流部無堤対策としてひのそ他地区での来日川及び今津川合流地点の整備（図 -4）、下流部

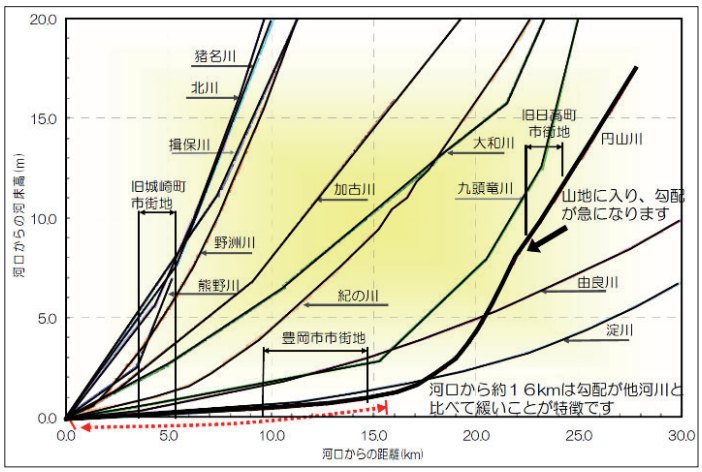


図 -2　他河川との河床勾配比較

図 -3

図 -4　下流部無堤対策 ひのそ他地区

の浸水被害軽減を図るため、中郷 (なかのごう) 地区で遊水地の整備（図 -5)、上流部無堤対策として鶴岡・日置地区での築堤盛土、排水樋門等の施工を行っています。また、ソフト対策として、簡易型監視カメラやワンコイン浸水センサ等を用いた情報発信を行っているほか、今年は台風 23 号の大水害から 20 年経過したことから、当時の被災状況やこれまでの取組を振り返るためのシンポジウムを開催しました。

さらに、近年激甚化している水災害に備えるために、流域のあらゆる関係者が連携し流域全体で水害を軽減させる「流域治水」に取り組んでいます。令和 6 年 4 月には流域治水の取組を加速・進化させるために必要な取組を反映した「円山川水系流域治水プロジェクト 2.0」を公表しました。

（2）環境事業

円山川流域では、コウノトリが多く生息していた頃の湿地などの良好な河川環境の再生を目指しています。「コウノトリと人が共生する環境の再生を目指して」をテーマに、ヨシ原・干潟の保全や大規模湿地環境の創出、魚道整備、地域と連携した環境学習などを行い、コウノトリを頂点とした多様な環境の再生や人と河川の関わりの創出を図っています。加陽 (かや) 地区では、平成 19 年度から平成 29 年度にかけて、河川区域内の水田跡地を利用し、魚類の再生産の場となる開放型湿地や閉鎖型湿地を再生しました（図 -6)。令和 6 年度は、中郷遊水地での湿地再生に向けた検討を進めています。

3. おわりに

近年の河川整備により効果が発現しています。例えば、令和 5 年台風 7 号による出水で、立野水位観測所（兵庫県豊岡市）では避難判断水位を超過しましたが、5.2k 地点（来日地区等）では外水氾濫を回避し、浸水被害の発生を防止しました。また、管内の排水機場を稼働させること内水氾濫による浸水被害を回避しました。

環境事業については、これまでの推進により、平成 17 年に初めてコウノトリの試験放鳥が実施されて以降生息数が増加しており、令和 6 年 7 月末時点で 476 羽が確認されています。（図 -7）

今後も円山川流域を災害に強い地域にするために、地域と連携しながらコウノトリをはじめとする多くの生きものを育む河川環境を考慮し、流域治水の取組をすすめます。

図 -7　飛来してきたコウノトリ

図 -5　中郷遊水地

図 -6　加陽地区大規模湿地再生